

福山大学 経済学部 令和元(2019)年度 自己点検・評価書

基準1. 理念・目的

領域: 使命・目的、教育目的

2019年度

経済学部

中長期計画	経済学部の目的(経済学部規則第2条2)に次のように定められている。経済学部は、経済学・経営学の両方の視座から社会を鳥瞰できる学生をそだてるとともに、企業や組織体を牽引する人材を養成する。経済学科は、広い視野と実践能力を持ち、経済や金融そしてスポーツ産業等のありようやあり方に十分な理解を有する人材を育成する。国際経済学科は、広い視野と実践能力を持ち、国際経済を日本経済とのかかわりでとらえることのできる人材を養成する。税務会計学科は、広い視野と実践能力を持ち、会計学や経営学を十分に理解しそして活用できる人材を養成する。
--------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2019年度

経済学部

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等は、それぞれの使命・目的および教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	①理念・目的は、経済学部規則第2条の2に明記している。 ②建学の理念・目的に基づいて経済学部の理念・目的は設定されている。すなわち、経済学部は、経済学・経営学の両方の視座から社会を鳥瞰できる学生を育てるとともに、企業や組織体をけん引するような潜在力を育む。(経済学部規則第2条の2) ③即戦力として活躍できるように資格取得目標を設定している。
年度目標	現状の目的を維持する。
年度報告	目的に基づいて学部運営が行われた。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	①経済学・経営学の両方の視座から学部教育を実施する点がユニークである。 ②社会を鳥瞰する実力を持たせるための教育を実施している点が特徴的である。 ③企業や組織体を牽引する力を育てようとしている点が個性的である。 ④資格取得対策を丁寧に実施することを明示している。
年度目標	現状の努力を維持する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	①社会の要請としては、備後企業との対話を通して求められる人材について意見交換をしている。 ②背景の変化に対しては急激なグローバル化、高齢化、少子化を反映している備後地方経済の分析をしている。 ③即戦力となれるような資格取得について検討している。
年度目標	現状の努力を継続する。
年度報告	現状の努力を継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①企業懇談会報告書
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

経済学部

中点検項目	1-2. 使命・目的および教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的および教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	①教員が備後企業と密接な関係を持ち連携を深め、理念実現に努力している。 ②資格取得対策を教職員が一体となり取り組んでいる。
年度目標	現状の努力を継続する。
年度報告	現状の努力を継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①企業懇談会報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学内外へ公表し、周知していますか。
現状説明	①講演会、企業訪問等の活動実績をホームページに記載している。 ②学長室ブログ、学科ホームページで周知を図っている。
年度目標	現状の努力を継続する。
年度報告	現状の努力を継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①海外研修についての学長室ブログ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 中長期的計画に反映していますか。
現状説明	直接、中長期計画を修正するという形では反映させていない。現状の取り組みは中長期計画の現状の範囲内で実施しており、整合的であると判断している。

年度目標	中長期計画と齟齬があるかどうか検証する。
年度報告	外部評価を通じて検証した。結果は中長期計画と矛盾していない。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①平成31年度経済学部外部評価報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 三つのポリシーに反映していますか。
現状説明	①ディプロマポリシー 取り組みの結果が教育成果となり卒業資格の構成要件となっている。 ②カリキュラムポリシー 学部取り組みはカリキュラムに反映して実施されている。 ③アドミッションポリシー 入学希望者に対して学部の取り組み指針と実態を明示させている。
年度目標	現状の努力を継続する。
年度報告	現状の努力を継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	カリキュラム関係部分では理念に則り学部全体で取り組んでいるので整合的であることは自明である。
年度目標	現状の努力を継続する。
年度報告	現状の努力を継続した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

経済学部

基準2. 学生

領域： 学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応

2019年度

経済学部

中長期計画	中目標 各学科の定員充足を確保する。 小目標 オープンスクールの充実化。学科活動の見える化。フェイスブック等広報充実化。 在学生の満足度向上推進。
-------	---------------------------------------------------------------------------------

中点検項目	2-1. 学生の受入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	①アドミッション・ポリシー策定に関して、教育目的と密接に関係させている。 ②周知の点ではホームページ・パンフレット、学生便覧に記載して内外に周知している。
年度目標	現状の取り組みを維持する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧 ②経済学部ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	①学科内教員が適正を把握し、問題があれば未然に解決できるように学科会議等で案件として対応を議論している。 ②改善であるが、定員未充足の状況の学科での改善が遅れがちである。
年度目標	現状の取り組みを継続する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2019年度第8回経済学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	①入学生受け入れ状況について運営委員会にて検証している。 ②増減の原因を学科別および試験別に分析している。
年度目標	運営委員会が検証体制を設け、検証を実施する。
年度報告	運営委員会で検証を実施した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①IR実施結果を学長、副学長、他学部学部長に提示
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。出来ていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	①経済学科は定員を確保できているが国際経済と税務会計は定員割れが続いている。 ②高校訪問など学生募集の機会を増やし、効果的説明を実施する。

年度目標	定員割れ対策について入試の参事と相談すると共に、経済学部運営委員会においても必要な対策を検討する。
年度報告	経済学科で合格者を抑制し国際と税務へ誘導した。その結果経済と国際で充足したが、税務で未充足となった。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①入試広報からの合格者数データ
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

経済学部

中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	①協働に関して、基礎ゼミ、教養ゼミで主として担当者がオムニバス形式授業や資格対策を実施している。 ②学内外には資格取得結果をホームページに掲載している。
年度目標	現状の取り組みを実施する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①平成31年度経済学部外部評価報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	基礎科目である基礎簿記に配置している。
年度目標	現状の取り組みを継続する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部ホームページ
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

経済学部

中点検項目	2-3. キャリア支援
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	支援体制としてキャリア教育を通して指導している。キャリア形成支援委員が設置されており系統的に支援がなされるように運営している。
年度目標	現状の取り組みを継続する。

年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊟ 卒業生の進路に関する過去3年間にわたる資料を収集し、検証していますか。
現状説明	①就職率は改善傾向にあり、未内定者数は減少しているが、その他が例年28名程度おり、その分就職率は下落している。 ②検証するに及んでいない。
年度目標	現在の取り組みを継続し内定率100%を達成する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①就職率データ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊦ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	①資格取得は様々な資格対策を学部全体で推進する体制を整備して実施している。 ②インターンシップに関して、全学的に推進する取り組みに参加するように指導している。
年度目標	現在の取り組みを継続する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	㊤ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取り組んでいますか。
現状説明	就職指導は主に学部内就職委員とゼミ担任が協力して指導し、学生には就職課の活用を勧めており、質的量的向上を図っている。
年度目標	現在の取り組みを継続する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部ホームページ
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	奨学金制度があり必要な支援は受けることができる。
年度目標	現状の取り組みを継続する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧 ②経済学部ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取り組んでいますか。
現状説明	学部内にハラスメント対応委員会およびハラスメント相談員を設置して対応する整備をしている。
年度目標	現在の取り組みを継続する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧 ②経済学部ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取り組みを行っていますか。
現状説明	①サークル活動に関して、サッカーと野球は部長の下で専門的指導を受けている。 ②留学に関しては国際経済学科教員および国際交流で相談に対応している。
年度目標	現在の取り組みを継続する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部ホームページ
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。
現状説明	①大学全体の建物、施設等については福山大学全学共通設備・機器等管理委員会で検討し順次実施している。 ②学部に関する設備(端末、ブルームバーグ、日経テレコムなど)の設備整備方針は、経済学部のありようから見て適切である。 ③学部に関する設備等については、教員からの要望を聴取し、必要であれば運営委員会を通して予算要求している。
年度目標	現状の方針を維持する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	図書館については、オリエンテーションで説明をしている。また一部の教員は実際にゼミ生を図書館に引率して資料の場所を説明するなどして利用を促している。
年度目標	図書館利用促進対策を策定し実施する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティスペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取り組んでいますか。
現状説明	全学的な取り組みの中で推進されるべき事柄という認識の下、対象となる学生に対応できる対策を実施している。最近の事例では受講時の席の位置を特別に配慮することであった。
年度目標	現在の取り組みを継続する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	受講者数に対応した教室を使用している。ICT機器を利用する講義ではその設備のある教室を利用している。パワーポイントを利用する授業はほとんどの教室で実施できるようになっている。
年度目標	現状の取り組みを継続する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	業者の点検が定期的に実施されており経済学部単独では実施していない。
年度目標	現状の取り組みを継続する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	経済学部には劇物・危険物を扱うケースはない。
年度目標	現状の取り組みを継続する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	安全マニュアルを作成し、学生に配布し講習を実施している。
年度目標	現在の取り組みを継続する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A

改善課題	
根拠資料	①経済学部オリエンテーション資料
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

経済学部

中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	①ゼミ担任が意見を把握し、相談にのっている。 ②授業評価アンケートにおける意見を集約して学科長へ報告し、講義内容を改善する体制を実施している。
年度目標	現在の取り組みを継続する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	①ゼミ担任が対応している。 ②学部内にハラスメント相談員、学生委員会を設置しており問題があれば対応する。
年度目標	現状の取り組みを継続する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	①ゼミ担任が対応している。 ②学部内に教務委員会を設置しており問題があれば対応する。
年度目標	現状の取り組みを継続する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部ホームページ

次年度の課題 と改善の方策	
2019年度	経済学部
基準3. 教育課程	
領域： 卒業認定、教育課程、学修成果	
2019年度	経済学部
中長期計画	全学的には、大学学部教育における教育目標を示す「福山大学教育システム」の方針、この方針に基づいた学位授与方針がある。それに加えて、平成26年度に新たに定めた、経済学部・学科の目的、ディプロマポリシーそしてカリキュラムポリシーがある。平成27年度にはカリキュラムポリシーが全学的に見直されている。中目標としては、経済学部の目的や3つのポリシーの維持に努めることである。小目標としては、経済学部運営委員による中目標点検とする。
2019年度	経済学部
中点検項目	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	周知に関しては、大学構成員に対しては学生便覧、社会に対しては主としてホームページ、パンフレット等で説明している。
年度目標	現状の取り組みを継続する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧 ②経済学部ホームページ
次年度の課題 と改善の方策	
点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ルーブリック等の評価指標を含む)等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	①策定に関して、全学的には、教務委員会、大学教育センター、評議会等で検討している。学部内では、学部教授会、学科会議、学部教務委員会等で随時検証し適切な基準になるよう検証している。 ②周知に関して、学生便覧およびホームページに明記している。
年度目標	現在の取り組みを継続する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧 ②経済学部ホームページ
次年度の課題 と改善の方策	

点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	①基準の公表に関して学生便覧、ゼルコバで周知を図っている。 ②適用に関して、年度末に進級判定、卒業判定会議で基準を適応して審議している。
年度目標	現在の取り組みを継続する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧 ②経済学部ホームページ
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

経済学部

中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	①策定であるが、執行部が原案を作成し教授会で承認を受けたものを学部のポリシーとして運用している。 ②周知に関しては、学部HP、学生便覧、ゼルコバに掲載して周知徹底を図っている。
年度目標	現在の取り組みを継続する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧 ②経済学部ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	カリキュラム・ポリシーを着実に達成できればディプロマ・ポリシーで描く像に最短かつ最速で到着できることを明示している。
年度目標	運営委員会において、一貫性が保証されるように検証する。
年度報告	検証はできなかった。カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの一貫性は保証されている。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧 ②経済学部ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	カリキュラム・ポリシーで具体的な科目群設置を述べ、教育課程における個々の科目は具体的にそのジャンル内の科目を設置している。

年度目標	現状の編成を維持すると同時に問題点があれば改善する。
年度報告	現状の問題点を議論している途中である。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学科会議資料メモ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	教養科目は3群にわたり芸術とスポーツの群を含む10単位を最低履修しなくてはならない。芸術とスポーツの群の科目の単位数は1単位科目がほとんどである。また、教養科目は必要以上に学習する機会が豊富に与えられているので、興味のある学生は利用できる環境にある。
年度目標	現状の方針を継続する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧 ②経済学部ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	①教授方法ではないが、各自の研究内容報告を月1回実施している。 ②この研究会を通して教員間の学習機会増進を図っている。
年度目標	教授方法の工夫・開発をした教員がいればそれについての講義を依頼する。
年度報告	教授方法ではないが、学部教員が専門分野の研究報告を行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①平成31年度経済学部研究会メール案内
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ ディプロマ・ポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	卒業判定はカリキュラム・ポリシーの達成面からの最終的総点検である。ディプロマ・ポリシーはカリキュラムを実施し単位認定が行われることにより達成できていることを仮定している。
年度目標	両者の間に齟齬をきたさないように点検する。
年度報告	点検は実施できなかった。
達成度	A
改善課題	

根拠資料	①学生便覧
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

経済学部

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメントポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	①学習成果の点検・評価方法の確立について、経済学部運営委員会により点検を実施し問題点があれば議論している。 ②検証に関して、経済学部運営委員会により実施している。
年度目標	現在の取り組みを継続する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学教育センターアセスメントポリシー資料 ②Cerezo ③2019年度学科教育プログラム点検・評価報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックはどのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	①フィードバックに関して、経済学部運営委員会で決定後に教授会において学生指導上の注意事項として注意喚起している。 ②改善に関しては、適宜運営委員会で取り上げている。
年度目標	現在の取り組みを継続する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①授業評価アンケート報告書 ②2019年度学科教育プログラム点検・評価報告書
次年度の課題と改善の方策	

基準4. 教員・職員**領域： 教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援**

中長期計画	①教学マネジメント 教員の組織的な連携体制について、経済学部運営委員会(学部長、学部長補佐、研究科長、3学科長、研究科長、教務委員)による学部運営方針の決定をしている。責任の所在は経済学部運営委員会である。②教員・職員配置 現時点では、経済学科は14名、国際経済学科9名、税務会計学科8名である。設置基準に沿った人員配置を適切に実行する。長期ビジョン実施体制を構築する。小目標 資格取得実施体制を作る。社会人基礎力のためのアクティブラーニング導入体制を作る。③研修 全学的方針で実施されるものについては教授会などを利用して参加を要請している。④研究支援 学術進展に関して、2つの研究会(経済学研究会、備後経済研究会)を定期的実施する。
--------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネジメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	①学長の指示する大方針に基づいて、個々の科目にまで至る経済学部教育が実施されている。 ②経済学部長、学科長は大学教育センターの方針に従って学部・学科教育を実施している。
年度目標	現状の取り組みを維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①全学教授会議事録 ②経済学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	①役割の分散化に関しては、教務委員、学生委員、就職委員などを設置して対応を図っている。 ②①の担当者はそれぞれが委員としての職務を果たしている。
年度目標	現状の取り組みを維持する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①委員会名簿
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネージメントの機能性を高めていますか。
現状説明	①職員は適正に配置されているが、少ない人数と業務内容が多岐にわたり、役割はあまり明確化されておらず、総合的に職務に当たっている。 ②教員は職員と協力しつつ教学マネージメントの水準向上に取り組んでいる。
年度目標	現状の取り組みを維持する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①経済学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

経済学部

中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	①教員選考にあつては「福山大学教員選考基準」「福山大学教員選考基準内規」「福山大学経済学部教員選考基準」に則っている。また、教員採用は原則公募であり、博士号を有する者、博士号を有する者と同等以上の教育研究能力がある者、応募科目および関連科目に関する講義が可能な者、という条件を付けている。 ②性別に関してはポジティブアクションを選考基準の重要な柱の一つとしている。年齢に関しては学科内で調和が保たれることを考慮している。職階は現状の教授数などを考慮して募集している。
年度目標	現状の取り組みを継続する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①2019年度教員選考委員会報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	経済学科15名(+5)、国際経済学科9名(+1)、税務会計学科8名(+0)と教員数は確保できている。()内は基準との差異。
年度目標	設置基準に配慮しつつ人事計画を立てる。
年度報告	教員の予期せぬ退職が多発した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	2019年度経済学部人事計画

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ FD(Faculty Development;教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取り組みを行っていますか。
現状説明	全学実施のFDIに積極的に参加するように要請している。また経済学部においては経済学部研究会で教員の研究内容説明会を実施している。
年度目標	現状の取り組みを継続する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学研究会報告メール
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

経済学部

中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development;教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。
現状説明	職能開発面に関しては、経済学部運営委員会において、十分に本来の期待される機能が発揮できるような体制となるように、構成員の組み合わせ等を配慮して実施しているところである。
年度目標	現状の取り組みを維持する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①研修実施参加依頼メール
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学運営の効率改善のために ICTの活用を推進していますか。
現状説明	活用は推進できている。 ①メールによりファイルを配信することでほとんどの連絡は効率的に実施されている。学生指導においても必要不可欠の手段となりつつある。 ②また、場合によってはメール会議などの利用により効率的に会議時間を活用できている。
年度目標	現状の取り組みを維持する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①ICTサービス関連メール
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	4-4. 研究支援
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	教員の研究時間の確保は、各教員に任されている。 研究室の設備の整備については年度予算申請を通して、教育研究環境整備を図っている。 委員会が多いこと、加えて新任教員を含む勤続年数が僅少教員が学部内で多いことから、各教員の研究環境は厳しい状況にある。
年度目標	①委員会委員に関しては教員の適正を考慮して委員に選任する。 ②研究環境に関しては各教員に問題があれば早急に対処していく。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①研究関連ガイドブック
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	①福山大学学術研究倫理審査委員会があり、規定も整備されている。教員全員に周知徹底している。 ②加えて、経済学研究会が編集している『福山大学経済学論集』に投稿規定が定められ、その中に剽窃等に関する倫理規定がある。これらは周知され、適切に運営されている。 ③福山大学学術研究倫理審査委員会によって、適切に運営されている。
年度目標	現状の取り組みを維持する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①研究関連ガイドブック
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	①資源配分に関しては、個々の教員への研究時間は適切な範囲で与えられている。資金面では科研費申請で研究費を確保可能である。 ②運用の適正性に関しては、特定の個人に負担が集中しないように運営委員会で慎重に議論されている。
年度目標	現状の取り組みを維持する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①研究関連ガイドブック

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか。
現状説明	①科研費については、教員が管理せず、事務方が管理をするように定められている。 ②科研費のコンプライアンスについて、教員全員が参加してFD講演がなされ、周知は図られている。
年度目標	現状の取り組みを継続する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①研究関連ガイドブック
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

経済学部

基準6. 内部質保証

領域: 組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル

2019年度

経済学部

中長期計画	中目標 教育方針である、実践能力を充実させる、広い視野を獲得させる。外部から高い評価を受けることができる学生を育成する。小目標 個々の教員による卒論指導の充実化。ビジネス能力検定試験、MOS等の資格試験に合格させ、社会人基礎力を定着化させる。グローバル化に対応した人材育成プログラム充実化。
-------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2019年度

経済学部

中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	システム整備に関して、 ①個々の教員の評価基準をシラバスに記載しその通りに運用している。 ②進級基準および卒業基準を定め基準を遵守するように運営している。 ③卒業論文を重要科目に位置づけ、要旨集の公開、内容報告公開を実施している。手続きについて、シラバスに関しては教務委員および学科長、進級卒業判定は学部教授会、卒業論文は卒論委員会を設置して対応している。
年度目標	現状の取り組みを維持する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部運営委員会メモ
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	①問題を早期に発見し可能な対応を運営委員会で協議している。 ②問題が発見されると、運営委員会、教授会での審議等を通じて、適宜、解決につなげている。
年度目標	現状の取り組みを維持する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部運営委員会メモ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	データ収集・分析は実施できていない。
年度目標	IR活動について運営委員会で対策を策定する。
年度報告	退学、留年等におけるデータ分析を実施した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部運営委員会メモ
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	自己点評価検委員(全学委員)は3名の学科長である。それに、教務委員が加わり、学部内の自己点検を行う。学生の授業アンケート、卒業生アンケート、成績の分布を委員会が共有して、PDCAサイクルを回して内部質保証に努めている。
年度目標	現状の努力を継続する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①授業評価アンケート結果報告書
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	教員の法令遵守については、全学的な方針にしたがっている。人権の尊重については、教授会等で教員に要請している。研究に関しては、経済学研究会が発行する紀要『経済学論集』には投稿規定があり、倫理規定が定められている。投稿規定は平成24年度に教授会で審議・議論され、制定された。平成26年度にコンプライアンスにかかわるFD講演があった。
年度目標	現状の努力を継続する。
年度報告	現状の取り組みが継続された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①経済学部モニタリング実施報告書
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

経済学部

基準7. 福山大学ブランディング戦略

領域: 「福山大学ブランディング戦略」の点検・評価（本学独自基準）

2019年度

経済学部

中長期計画	<p>備後地域にある大学として、地域とともに歩み、地域社会の発展と安定並びに地域への人材供給に寄与することを本学のミッションとする。本学は、産業界及び地域自治体（産官学）との連携を担い、地域社会の持続的発展と地域経済の活性化に寄与することが求められている。経済学部においては、ブランディング事業運営委員会を母体に、①里山・里海経済のビジネスチャンスの研究と②備後経済研究会（以下、本研究会）による地域企業・産業の研究を推進する。備後地方は、瀬戸内地方の中心にある。ここに住む人々の暮らしは、里山里海にあり自然と共生している。鞆の浦は瀬戸内海の中央に位置し、古くから潮待ち風待ちの港として栄えたところである。万葉集でも大伴旅人など多くの歌人にも詠まれている。また福禅寺の本堂に隣接する対潮楼は、江戸時代の元禄年間に創建された客殿で国の史跡に指定されている。海の眺めは素晴らしく、朝鮮通信使の李邦彦は「日東第一形勝」と絶賛している。今日の備後地方は、昭和39年に備後工業整備特別地域に指定されて以来、製鉄業、機械工業、繊維産業などが飛躍的に発展してきた。こうした中で里山里海に関連した農林水産業等も独自に発展してきた。経済学部では、共通のテーマである里山里海学に関連したヒト（観光）とモノ（農作水産物）の動きを研究プロジェクトとする。</p>
-------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

2019年度

経済学部

中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	① 福山大学ブランディング戦略（ver. 2018）の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	<p>①備後地区の里山里海資源が、地方再生に向けた具体的役割を検証しつつ内海町、広瀬町など周辺の実績を事例に可能性を探る。</p> <p>②海外市場開拓については里山里海の特産品の海外市場へのアクセスを巡る問題点、解決策を中心に考察する。</p> <p>③観光産業は地域に眠る観光資源についてその実態を客観的な視点から関係者への取材、アンケートを通して地域資源の新たなビジネスの活用やポテンシャルを探る。</p> <p>④備後地域の食品産業の実態と農林水産資源活用の可能性について考察する。</p> <p>ブランディング戦略については、年度初めの学部教授会で周知している。備後経済研究会は、研究会、講演会の開催時に教職員へ周知している。また関心のある学生・院生・社会人についても参加を呼び掛けている。周知については、問題ないと判断している。</p>
年度目標	現状を継続する。

年度報告	経済学部は、ブランディング事業運営委員会を中心にして、里山・里海資源に基づく備後地域の産業競争力強化と雇用力増進との好循環の創出可能性について取り組んでいる。ブランディングについては、例年通り年度初めの学部教授会で周知した。また備後経済研究会などイベント開催に合わせて学生・院生・社会人に周知した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との差別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取り組んでいますか。
現状説明	①社会に貢献する観点では、里山里海資源が、地方再生に向けた具体的な取り組みをテーマにして可能性を探ることになっている。 ②里山・里海経済のグローバル化の視点で検討している点で实际的である。 ③他との差別化を図る点では独自の観光産業の活用を図っている。 以上のことに対しては、地元企業との連携を重点的に取り組むことにしている。
年度目標	現在の努力を継続する。
年度報告	備後地域は全国的にも有数な産業集積地である。経済学部のある教員は、福山商工会議所の経営改善委員会責任者として参加している。また国際経済学科のトップ10カリキュラム、4大学連携のグローバル人材育成事業などは地域における中心的な取り組みとして実施した。里山里海に関連する地域再生は独自の努力を続けており地元連携を深めた。税務会計学科の備後経済研究会は、業界、企業に対して大きな貢献を果たしている。地域との積極的な連携を通して地域貢献に努めた。
達成度	
改善課題	
根拠資料	①福山商工会議所月刊誌「商工ふくやま」7月号
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取り組んでいますか。
現状説明	①備後地域の産学官民連携を推進の点では企業・行政と連携した事業展開をしている。関連する主要な事業は備後経済研究会である。備後経済研究会は、新年度から定着した事業として学部の事業へ移行することになった。引き続き、備後地域における各種業界の協力を得ながら一体となり、資料の発掘、発見、収集、研究に努めている。 ②関係業界等は、行政関係、業界団体、個別企業である。 ③グローバル人材育成、市場開拓などは、産業界、行政と一層連携していく。
年度目標	現在の努力を継続する。

年度報告	経済学部は、福山商工会議所月刊誌「商工ふくやま」で紹介したとおり、全人教育を基底にした人材育成に努めている。トビタテ、フィリピン研修、インドネシア研修を始め、国際経済学科のトップ10カリキュラム、4大学連携のグローバル人材育成事業は国際社会に直接つながるものとして定着した取り組みになっている。また中国市場に進出している備後地域の食品産業の課題をふまえ、企業戦略、経営を明らかにした。大学院のゼミナール、産学連携の成果発表、経済学論集での発表、また中国経済論などで国際社会につながる人材育成に努めた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山商工会議所月刊誌「商工ふくやま」1月号 ②福山大学経済学部論集第43巻（劉） ③福山大学経済学論集第44巻（大城）
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目指しています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	①里山・里海学では、観光、流通、商工業振興など備後地域の特性を生かす取り組みを行っている。特に新年度では、内海町などの里山里海の資源が地方再生に向けた今後の可能性を探ることになっている。 ②備後経済研究会は継続して産学連携を進めており、また事業の途中であっても業界、市民へ成果を還元している。
年度目標	里山里海資源が内海町などでどのように生かされているか検証し、問題点を探る。
年度報告	経済学部は、昨年10月福山商工会議所と連携して中国経済シンポジウムを開催した。シンポジウムでは、西村友作氏（対外経済貿易大学）、地元を代表する企業責任者などをパネリストとして110名の参加があった。国際経済学科のトップ10カリキュラム、4大学連携のグローバル人材育成事業は地域における中心的な取り組みをしている。また本年1月、福山商工会議所議員全員協議会で、税務会計学科 張楓教授が、「地域がつくる産業、産業が作る地域について」講話した。出席者は会頭をはじめ70名で熱心に聴講した。また劉准教授、大城講師は、研究成果を福山大学経済学論集への掲載をしている。また、『備後福山の社会経済史』（日本経済評論社2020年）発行や備後経済論の連携を進めている。 今年度実施した外部評価委員会では、企業代表の外部評価委員からこうした実績をふまえ、さらに企業懇談会、シンポジウムなどの取組を行い企業からの意見を聞いていることは大変良いことと評価を受けた。また外部評価委員の全体評価でも高い評価であった。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山商工会議所「商工ふくやま」1・2・3月号ほか ②中国経済シンポジウム開催要項 ③張楓編『備後福山の社会経済史』日本経済評論社2020 ④福山大学経済学部論集第43巻（劉） ⑤福山大学経済学論集第44巻（大城） ⑥経済学部外部評価報告書
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	⑥ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	①備後企業の取り組みの実態を理解させ、就職の対象として考える機会を与えている。このためトップ10、備後地域研究、備後経済論などは、グローバル、里山・里海の特徴を生かす取り組みを行っている。 ②経済学部卒業生の多くは、2/3が地元で就職し活躍している。
年度目標	検証し、問題点を明確化する。
年度報告	経済学部の志願者には、就職率が良い、資格に熱心という評価が多い。産業界は即戦力、実践力を求めている。経済学部では、ビジネス検定、証券外務員、日商簿記、MOS検定などの合格実績が上昇している。また地域に関連した、トップ10、連携事業としてのグローバル人材育成事業など中核的立場で計画的に実施した。備後経済コースでは、地域調査、備後経済論を開講し実践的な人材育成に努めている。地域調査では、特定の企業と円滑に実施するために協働事業協定書を締結した。経済学研究科は、税理士養成に関して他にない特色を有し、関係者から高い評価を得ている。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①各種資格の取組み実績 ②2019福山大学学生便覧 ③協働事業協定書 ④経済学部外部評価報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	①里山・里海の経済をグローバル経済に繋げていく、市場調査、食品産業の実態、また新年度では、内海町などの里山里海の資源が地方再生に向けた今後の可能性を探ることになっている。 ②備後経済研究会は、本年度から定着した取り組みとなり学部の事業へ移行することになった。個別の企業、個別業種のデータを整備し、データベース化しながら事例分析を行うことにしている。 ③上記のことを、主要には大学ホームページにより周知を行い、行政関係、企業経営者、一般市民などが参加している。平均的な参加者は15名程度で、成果が検証できると判断している。
年度目標	検証し、問題点を明確化する。
年度報告	経済学部では地域との関係を重視して、広瀬地区、内海地区の活性化施策について地元団体と連携した取り組みをしている。また備後圏域の里山・里海を活性化する観点から中国市場への販売ルートについては、里山・里海に関連する食品産業などが新興市場に対するアクセスの可能性について研究し、ホームページ、大学院のゼミナール、産学連携の成果発表などを通して行政関係者、企業経営者から高い評価を得ている。備後地域の企業研究については、研究会を定期的に開催したり、福山市史編纂に加わるなど関係者から高い評価を得ている。 今年度実施した外部評価委員会では、経済学部のブランディング評価に関して評価員の評価点は、4点満点でブランディング戦略の推進3.5、推進研究プロジェクト3.0と高く評価されている。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①経済学部外部評価報告書

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑦ 福山大学ブランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	①学問にのみ偏重しない全人教育として、企業・行政連携での学びを通し、行動の重要性が考えられるような取組みを重視している。 ②具体的な例では、昨年4月から福山商工会議所の月刊誌(発行 5,700部)に、経済学部を紹介している。この中で「知行合一を基底にした全人教育」を共通テーマとして人材育成、地域連携などの魅力を発信し、企業経営者などから高く評価されている。 ③他においても機会があれば引き続き取り組む。里山・里海学、研究会においては、観光、流通、消費、また産業界と密接に関連したテーマであり、報告会の内容、参加者等を通して検証している。
年度目標	検証し、問題点を明確化する。
年度報告	経済学部は民間分野と直接関連している。昨年度福山商工会議所の月刊誌「商工ふくやま」に経済学部が掲載した共通テーマは「知行合一を基底にした全人教育」であった。多くの企業経営者から激励と高い評価を得ている。またブランディングの研究テーマは、グローバル経済の進展、地域の産業形成などであり計画的に実施した。税務会計学科では、地域調査、備後経済論などの授業を通して産業界と連携して全人教育を意識した人材育成を行っている。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①福山商工会議所「商工ふくやま」 ②2019年度福山大学学生便覧 ③2019年度経済学部外部評価報告書
次年度の課題と改善の方策	

2019年度

経済学部

中点検項目	7-2. 福山大学ブランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取り組んでいますか。
現状説明	①学部内でプロジェクトチームを作成している。メンバーは張楓を中心に、尾田、平田、佐藤、大城、また大学院担当として春名、合計で6名である。 ②予算要求、執行等に当たっては、他の教員、学部事務室が円滑に推進できるよう支援している。
年度目標	現在の努力を継続する。
年度報告	研究プロジェクトに直接関係する教員は張楓ら前年度4名から6名となった。参加体制は強化した。一部の関係教員が他の業務に追われ研究プロジェクトに専念する時間が必ずしも十分でなかった。また年度末には新型コロナウイルスによる感染防止から調査活動が制限されるなど研究活動の計画が進まなかった。
達成度	B
改善課題	教員、事務部門の連携を図る。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	①外部資金獲得に向けて公益財団法人などと協議したが申請者は県内企業者であること、また事業期間は基本的に単年度であることなどから不調に終わった。 ②一般財団法人と資金確保に向けて協議を行っている。
年度目標	現在の努力を継続する。
年度報告	平成29年度に一般財団法人から一部助成を得たが、平成30年度は諸般の事情から断念せざるを得なかった。公益財団法人などと協議を行ったが不調であった。このため資金獲得に向けて取り組んだが前年に続いて不調であった。
達成度	B
改善課題	引き続き資金獲得に向けて取り組む。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	①中国市場調査は、研究活動をふまえて大学院の公開ゼミナール、産学連携の成果発表、公開講座での発表を行っている。 ②備後経済研究会では、例年4回の開催をとおして成果を行政関係者、一般市民、会社役員、経営者、本学学生などに広く発表している。その他については、計画の途中であり発表の段階ではない。
年度目標	現在の努力を継続する。
年度報告	中国市場調査は、研究活動をふまえて大学院の公開ゼミナール、産学連携の成果発表、公開講座での発表を行った。企業調査では、『福山市史』の編纂に携わり、また福山商工会議所議員全員協議会で、税務会計学科 張楓教授が、「地域がつくる産業、産業が作る地域について」講話した。出席者は会頭をはじめ70名で熱心に聴講した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	